

## 平成26年度第3回府中市立図書館サービス検討協議会議事録

日 時 平成27年2月12日（木）午前10時から11時半  
会 場 府中市立中央図書館 5階会議室  
出席者 栗田博之委員、茅原幸子委員、野見山敏雄委員、小島茂委員、  
北谷豪委員、高橋博子委員、大石千鶴委員、渡辺信子委員  
事務局 坪井図書館長、田邊サービス係長、佐藤地区図書館担当主査、  
菅沼、伊藤、平野（記録）

### 1 あいさつ及び配布資料の確認

### 2 議題

栗田委員 それでは本日の議題である、新庁舎建設基本計画（案）における宮町図書館について、配布資料に沿って事務局より説明をお願いしたい。

事務局 では事務局の方から、資料に基づき説明をさせていただく。まず資料1の「宮町図書館について」中の沿革にあるように、宮町図書館は平成19年に桜通り図書館が新中央図書館開館に伴い閉館した翌年の平成20年、旧中央図書館1階に開館した。次に資料2の「モデル事業1『府中駅周辺施設の再編』各施設の活用検討シート」だが、こちらは市側で公共施設のマネジメントとして府中駅周辺にいくつかある施設を再編しようと検討している内容で、宮町図書館についての検討の方向性としては、「老朽化した施設の見直しにあわせて処分を検討する、なお、機能については他の施設での対応を検討する。」となっている。同資料の4枚目の裏側に、ふるさと府中歴史館・宮町図書館の基本情報がある。竣工が昭和41年度ということで築年数47年と、施設が老朽化している。その下にある検討課題という項目のなかに「他施設における機能の確保」とあり、「現在検討を進めている新庁舎の機能の1つとして、ふるさと府中歴史館の展示機能及び宮町図書館の機能の一部が盛り込まれていることを踏まえ、機能の確保を検討する。」という形になっている。つまり、宮町図書館を含むふるさと府中歴史館が施設の老朽化により廃止が検討されているなかで、宮町図書館の機能の一部は新しい庁舎の中に入れるという構想がある。資料2については以上。今申しあげた、新しい庁舎に宮町図書館の機能の一部をいれるという具体的な文言については今日お配りした新庁舎特別号の方をご覧いただきたい。先ほどふるさと府中歴史館の老朽化の話をしたが、市庁舎のほうも老朽化が進んでおり安全性の不足を抱えている関係で、新しい庁舎

をつくるという動きがある。お配りした府中市庁舎建設基本計画（案）の35ページ目に事業スケジュールがあるが、現時点では平成34年度に新しい庁舎を建てる計画となっている。スケジュールの平成27年度のところに設計者選定、基本設計、実施設計とあるように、宮町図書館の機能の一部をどのように新庁舎に入れていくかについて、本日みなさんからご意見をいただきたい。お手元の広報紙を開いた右側の下のところに地域の交流及び発展への貢献という項目があり、図書館はこれに該当する。これは、「情報・受発信の拠点」、「交流を促進する場の提供」、「府中らしさを感じる場の提供」の3点で構成されており、「交流を促進する場の提供」の内容のなかに、「ふるさと府中歴史館の展示機能や宮町図書館の1部を新庁舎に移設するなど気軽に訪れることが可能な環境を整えます。」との記述がある。新庁舎建設基本計画（案）の中にはこのような形で宮町図書館が盛り込まれている。資料4の24ページに具体的に載っているのもそちらも参考にご覧いただきたい。（12）地域の交流および発展への貢献の中のイ、交流を促進する場の提供の下から2番目のところに「ふるさと府中歴史館の展示機能や当館内にある宮町図書館の一部を新庁舎に移設するなど市民が気軽に訪れることが可能な環境を整えます。」と具体的な文言が入っている。

最後に資料5だが、これらを踏まえ現在、市内の図書館で「府中市立図書館アンケート」を市民の方を対象に行っている。期間は平成27年1月10日から2月27日までで、本日は1月30日までに回収できた233枚を中間集計としてまとめさせていただいた。なお、アンケートは宮町図書館を扱ったもののため、宮町図書館集計と全館集計の両方を用意した。自由記述等で市民からも色々な意見をいただいているので、これらも参考にして検討いただきたい。なお、現状庁舎のワンフロア全部に図書館が入るということは考えにくい状況だ。図書館のこういった機能が市役所内で有効に活用できるかを考えながら、限られた新庁舎の中でどれほどのスペースを確保できるか、どうアピールしていくか話し合っていたいただきたい。事務局からの説明は以上である。

- 栗田委員 事前にお目通しいただいた資料について、何か質問等あればお願いしたい。
- 茅原委員 新庁舎は現在の庁舎より床面積が広がるのか。
- 事務局 府中市庁舎建設基本計画（案）の5ページに、新庁舎の規模が30,000㎡程度にすると書いており、現在の庁舎より広げる予定で計画している。なお、第2庁舎に入っている部署も新庁舎に入る予定になっている。
- 栗田委員 他に何か新しく加わる予定はあるのか。
- 事務局 ふるさと府中歴史館からも1階の展示部分を一部移行し市庁舎に来た方が府中の歴史を知ってもらう機会を作る予定だが、基本的には現在の市役所の機能を移行することで考えている。

栗田委員 新しい床面積の分だけ広がるということか。

事務局 そこも検討しているところである。

北谷委員 私は再開発しているところにも市役所の一部が入ると聞いているのだが、北庁舎や第二庁舎の一部が新庁舎に入ったとしても元々の部分が少し広がるのであれば、スペースとしてはゆとりがあると考えられるので、図書館のスペースをある程度確保しようと思えば確保していけるのではないかと思う。今新庁舎に図書館機能を入れることになっているが、そもそも再開発のところに持っていくことはできないのか。

事務局 A地区の話になってしまうのだが、市役所の市民活動支援の拠点としての部分が再開発ビルの5階、6階に、また駅2階にある市政情報センターが入る予定である。図書館は市政情報センターに予約の貸出・返却機能は入れる予定になっており、市庁舎の担当と再開発ビルの機能とのすみわけについて検討しているところだ。今までなかった部分が再開発に入るので、今までは市庁舎の方に入るような形である。

栗田委員 他にあるか。

大石委員 アンケートについて、どのように実施していたのか。実施期間中に図書館へ行ったが知らなかった。また、宮町図書館の一部ということは、規模の縮小だと思うが、具体的にどの程度縮小するのか。またどの部分が縮小されるのか教えていただきたい。

事務局 アンケートの実施方法だが、例を挙げると中央図書館では3階の二箇所にポスターを掲示し、アンケート回収箱と用紙を用意している。地区図書館では、カウンター近くに同じように用紙等を置いている。そのため、特段手配りのようなことはしていない。一部ということだが、具体的には何も決まっていない。どの機能を市役所へ入れるのかを含めてこれから検討する段階である。ひとつはっきりしているのは、今の宮町図書館と同じスペースは確保できないということだ。そのために、アンケートにもどのような機能をいれるべきかという項目をつけている。どのような規模にしていけば宮町図書館が本庁舎に行っても有効にご利用いただけるかといったところをご意見いただきたい。

茅原委員 今現在の宮町図書館は歴史館の建物の2階に入っているかと思うが、一部の機能というのは床面積程度ということか。

事務局 どの部署がどのくらいかということも含め全く決まっていない。

茅原委員 地区館機能という意味合いだとは思いますが、全部というのはどういうことなのか。

事務局 広さと蔵書数という意味では全てを移行させるのは難しいと考えている。広くなるとはいえ今の基本庁舎の部署と第二庁舎の部署が入るので、今現在手狭になっているということもあって、色々な相談窓口もあるのでどう考える

か、どう広げるかという点も含め現在検討中である。

そのため、ここでいただいたものを意見としてあげさせていただきたい。

茅原委員

面積的にはそこまで広くないのか。

事務局

そうである。

小島委員

そうすると、駅前再開発のところに予約・返却機能は入るが、図書館としての機能は再開発には入れないということか。

事務局

そうである。図書館として本を置いたりシステムを入れたりするということではない。

小島委員

再開発の点では利便性はあがるものの、新庁舎に入る宮町図書館の機能は縮小してしまうというデメリットがあるということか。

事務局

宮町図書館が入ることで、今までとはぜんぜん違う図書館というのも考えられるのではないか。

渡辺委員

貸出機能はあるのか。

事務局

そのつもりで話が進んでいる。

高橋委員

アンケートの自由記述に要望が色々書いてあるが、とても無理だろうと思われるものも書いてある。今の話だと図書館の機能を大事にするのであれば貸出・返却のみになるのではないか。書かれている自由記述を見るともっと色々な充実ばかりが書かれている。そういったものを実現するのが無理なスペースだと感じる。

事務局

書かれているように蔵書数を増やすとか広さの確保は難しいかもしれないが、それ以外についてはまだ何も決まっていないので、図書館の希望として意見を出していきたいと思う。

高橋委員

具体的な広さや形を想像できないので、いまいちぴんとこない。

事務局

計画には利用者の要望として、色々な意見を出していきたいと考えている。

高橋委員

自由記述にはよくPCを使えるようにしてほしいという意見が出てくるが、PCは使えるがネットは使えないということではよかったか。

事務局

現状としては、インターネットの使えるPCは中央にしか置いてない。

野見山委員

宮町図書館の機能を新庁舎に入れるということで、蔵書数や面積を拡大するのか縮小するのか、宮町図書館の現在の機能以外にラーニングコモンズのような機能を入れる余地があるのかなど事務局から提案してもらった方が議論しやすいかと思う。

佐藤主査

私個人としては、新庁舎に置かれる図書館はオープンスペースの中に図書館機能の一部があるという武蔵野プレイスや武雄市の図書館のようなものを想定している。オープンスペースの中に図書館機能をいれることができれば、図書館としては小さくてもフロアとして広いスペースの確保ができるのではないかと考えている。

- 野見山委員 アンケートで読み取れるものを見ると土日開館の実施や蔵書数を減らさないで欲しいということなどあり、また年間の貸出し者数が 27000 件あり、冊数が 70000 もあるなどかなりの利用がある。また、庁舎に入るとなるとセキュリティの問題もあり、オープンスペースは二律背反なところもあるが、1階のエリアを限定することになるのではないか。
- 小島委員 そうすると、土日開館の意見が多いが、計画（案）24ページにふるさと歴史館の展示機能や宮町図書館の一部ということで、オープンスペースで土日開館も含め、市民がかなり自由に、図書館機能、ふれあい機能も使うし展示も見るといふ広いものの中の一部という解釈でいいのか。
- 事務局 そのように考えられると思う。
- 北谷委員 市役所にいったときにいつ本を手取るかと考えると総合窓口等ではないか。待ち時間は暇なので、本を置いていけば読む。そもそもワンフロアに図書館を設けるのか。本棚を置いてそこを図書館と考えることなどもできる。ただ、先ほどの話のようにセキュリティの問題などがある。極端な話だが、私としてはその場にある本をそのまま借りられたらいいように思う。それで利便性はあがるのではないだろうか。まだ、何も決まっていないとのことであれば幅広く考えていいのではないか。
- 栗田委員 これまでのところではっきりしてきたことは、現在の図書館を限られたスペースに置くというよりも、今回の移転を契機として、積極的に何らかの新しい試みをしていった方がいいのではないかということだ。その場合、図書館だけではなく、別の機能と加えるという発想も考えられる。基本的に縮小版をどこかに置くという方向では考えないという点に関しては、皆様ご同意いただけるか。先ほど、野見山委員が言ったとおり、セキュリティの問題が厳しい。待ち時間に見ることができるようになる場合、雑誌であれば話は簡単だと思うが、書籍となると出入り口できちんと管理しなければならない。利便性と管理の両立は困難かと思うがどのようにお考えか。
- 高橋委員 雑誌や新聞だと想像がつくが難しい。本は大事な財産なので、ハードカバーをおいてとなると、どのように管理していくのかを考えると厳しいのでは。続きが読みたいから借りていきたいという要望をカバーできるかどうか、土日利用や長時間の開館について要望がある中で人員をかなりさくことになるのではないか。
- 渡辺委員 今の利用者の声を尊重することも大事だが、多少の批判があっても新しい発想で行うことが大事だと思う。武蔵野プレイスを例にして、新しい取組みを受入れても良いと思うのだが。例えば、あそこはとてつもない数の雑誌がある。そういった雑誌専門という発想もよいだろうと思う。それから、プレイスは大きな部分を民間のカフェが占めていて1階部分については図書館で重んじら

れる静寂についての捉え方自体が違っている。実際話をしたり、少し離れたところでコンサートをやったりしているがそれが邪魔になったりはしていない。また、図書館の原点に踏み込んで、頻繁に利用者の声を聞く会を設け、どんどん変えていっているようだ。私はプレイスをイメージするが、あそこはとても広い場所だ。広い場所がないと実行はできないわけだ。もう一つ考えたのは、アンケートを反映していないが蔵書を持たないという選択肢が考えられる。今インターネットで予約できる制度が整っている、インターネットが利用できない人には予約コーナーでコンシェルジュを置き、あらゆる図書館の相談に応じる場所をつくるなど、斬新なことをするべきだ。ある一定の蔵書数を下回ると蔵書の意味がないと思う。かなり突飛な意見も含め、条件を決めて、デザイナーなりに提示できないと結局何の機能も十分でないものをつくることになってしまう。どっちつかずが一番もったいないと思う。

大石委員 やはり、宮町図書館という場所を市役所の機能にすること自体が市民の活動エリアを市政にとられてるように感じる。市役所の機能はもちろん大切だが、市民が入れるエリアが少なければいけないがしろにされている印象を受けるだろう。今まで自由に出入りできた生活を豊かにするエリアが、市役所が必要だからといって市庁舎にとられてしまったら、市民のための市政なのか、市政のための市政なのかわからない。根本的なところで市民はないがしろにされているように思う。

その反面、市民のための交流スペースを作ることを考えているのだろうが、私は逆に市庁舎はそんなに行くわけではなく、必要なときにしかいかない。きちんとした機能をつけたものであれば、図書館に用事があって行くついでに市庁舎に行く、市政がわかるという考えのほうが市民の生活の実際だと思う。基本的には自分の欲求のために市役所について市庁舎の中の図書館に行くという方が実生活としては大事で、現実的だ。その点についての機能は後退をしないでほしい、落としてほしくないと考えている。縮小ありきではなく、どうにかして市民スペースを確保してほしい。これは建設に関して市民の理解に直接関わってくるポイントだと私は感じる。

佐藤主査 先ほど、市政は自然に入ってくるという話があったが、私のほうでもう一つ個人的に考えているのが、今も市庁舎の西庁舎3階に市政情報公開室というものがあり、行政資料や新聞などが置いてある。アンケートにも充実した方がよいのではと書いているとおり、恐らく宮町図書館が市政情報公開室との兼ね合い、場合によっては融合といったことも視野にいれることになるのではないかと考えている。1階はプレイスのようなオープンスペースがあって、静かな行政資料室が別フロアにあるような二本立てを考えてもよいのではと思う。

栗田委員 色々と話がとんでしまうので、論点を絞りながら進めていきたいと思う。床面

積を考えると、今までの機能がそのまま移るということには想定しなくて良いか。そうだとすると、何かを削らなければいけない。しかし、その削らなければいけない部分を他のものと合体させるという方向で考えるしかないということになると思うが、それでよいか。

佐藤主査 担当個人としてはおっしゃるとおりだ。

文化センターは半径1km以内に1つ作るようにしている。半径1kmと考えると宮町図書館のエリアは他の図書館のエリアと重なってしまう。だから、宮町だから拡大したいというのは難しい。これだけ他の図書館が近くにあるのであればもっと特化したものがあればというようになるのではと思う。

栗田委員 他の図書館の、全地区を上手くカバーするという論理とは違う考え方をしたほうが良いと図書館側でも考えているということによいか。そうだとすると、アンケートがその点をどれほど意識して作られているか疑わしく思う。今回のアンケートは要望があれば何でも書いてよいということになっており、特に今の点について考慮することなく答えているものが大半だと思うので、やはりそのままアンケートの希望にそって考えるというのは無理ではないのか。全体の配置等を考えながら、市庁舎の中に入るとして、どうすべきかを検討すべきだ。書架を置くというやり方には意味がなさそうである。できれば、市庁舎内にある図書館として、何らかの付加価値をつけていく方向で考えたほうが良いのではないかと思う。図書館が魅力的に映ることが大事なことだ。アンケートを無視しろというわけではないが、もう少し別の視点から眺めることが必要ではないか。新しい形態、今まで例が挙がっているカフェ、展示スペースや待合室とセットにする等の色々な可能性があると思う。実現可能性がどこまであるか考える必要があるが、その辺りの選択肢で何かあればお伺いしたい。

大石委員 待ち時間についてだが、本がなくとも検索端末があれば他市の蔵書など調べられるのではないかと考えている。例えば本を見るスペースがなくても、本を置けるスペースがあれば端末で調べてリクエストをして、今の地下書庫のような形で帰りまでに本を用意してもらおうというのもよいと考える。

渡辺委員 ある友人が「府中市には図書館が多すぎる」と発言したのを聞いたことがある。どこも画一的な機能しかないと、このように受け取る人も出てくるのではないかと危惧する。

高橋委員 駅の市政情報センターでは返却できる、予約できる機能ができるので駅を利用する方にはとても便利になるが、本を手にとって見ることはできない。そうであれば、近くで本を手にとれる場所を設けることは大事と思う。それを今の宮町図書館がやっている。新しい市庁舎に2フロアの可能性があるとのことなので、1階にカフェなどを置くのであれば、手に取りやすい雑誌などを置い

て上のフロアには歴史館や図書館がある形になればどちらも使えるのではと思う。それと今回図書館のアンケートをとっているが、市役所へ皆どの程度いくのか。根拠がないので何ともいえないが、基本的に市役所に行く頻度は図書館に行くよりも低いと思う。市庁舎を利用する時間は少しの滞在という印象である。

栗田委員 計画（案）26ページ、(14)新庁舎の規模のところにある、固有面積をご覧頂きたい。このスペースの積算を見ると、単独で入るというよりはロビーの中の一つとして図書館があるというように考えられる。市役所の利用ということ的前提を考えて、市民ロビーという形で使うなど、必要だから行くというより、ついでに行ったりするといった使い方を考えた方が良く思う。市民が利用する市民ロビーという空間で、他の機能との組み合わせるといことであれば、利用の仕方を広げていくことができるのではないかと。セキュリティの問題上、全部開架にするということは難しいので、本の管理と閲覧室のような二つの機能を別のフロアに振り分ける方法もある。飲食しながら本を眺める場所を作るという考えもある。その場合、汚れても構わないものと貴重な本を分けて考えれば、自由度は高まるのではないかと。他の図書館でもこのような試みは行われていると思うが、参考になるようなデータ等はあるか。

事務局 最近でいうと武雄市立図書館がある。地方の図書館だと集客がメインになるのでそのような方式になる。本は基本的に皆の大切な財産なので、汚破損したら弁償していただくこともある。まったく別の発想にしないと今のままではカフェテリアで行うのは難しい。

茅原委員 この議題を見たときに、場所柄、何か特徴のある図書館がよいように感じた。片町も中央とも近いので、ヤングアダルトに特化した図書館でもよいのではと思う。今、ヤングアダルト層の居場所がないというのが問題化している。高齢者の人は自分で居場所を見つけられるがヤングアダルト層はなかなか居場所がない。中央図書館にはYAルームがあるがとても狭い。一方市庁舎であれば、府中駅からも府中本町駅からも近くとても役に立つし、将来的に府中の市政への興味が増すのではないかと。そうすれば、全体的にヤングアダルト層に対する図書のことなどで、図書館として見直しができるのではないかと。新庁舎はカフェなども充実するのではと考えるのでそのスペースをまわして欲しい。中央のことをいうと、床面積的に厳しいのであればウィーンコーナーを市庁舎にもってあげればよいのではと思う。姉妹都市であるし、利用者もないし、再編の中で10代に対する支援を行って欲しい。今の子は家の中で勉強しないで、外にそのような場所を求める。そういう学習室のようなスペースが求められると思うので、庁舎には無理だと思うのだが、空いているスペースに学習室をいければ良いのではないかと。



栗田委員 事務局長 そもそも、中央の機能を市役所にもっていくということは可能なのか。想定はしていない。ウィーンコーナーの資料は、ウィーンのヘルナルス区の図書館と交流する中で得たものなので、機能としては違う。

栗田委員 事務局長 積算上計上されているのは移転費用だけか。

茅原委員 事務局長 全体の再編というのはたぶん難しい。

事務局長 かなりの再編になるので北庁舎をなくすとかグリーンプラザをどうするかとか、かなり全体的な意味合いもあると、資料を見て思う。

事務局長 グリーンプラザの件は建設と違って、こちらで載せた駅周辺の話になるのだがこれもまだ決定している話ではない。それこそ、子供の勉強スペースなど子供の居場所はどこに行くのかという話もあるのかもしれない。市役所は細かくいうと東西があって8階までであるのが東庁舎、3階までであるのが西庁舎、その上に駐車場と電算室というのがある。まだ決定ではないと思うが、全部ひっくるめて新しい庁舎になる予定だ。そのなかで先ほど挙げたような意味を持たしていく。例えばグリーンプラザをどうするのか。グリーンプラザも別館などがあるし、そういった件については同時進行で検討していて、こちらはまだはっきりは決まっていない。

茅原委員 図書館は本だけ扱っているということではできない流れになっているので、そちらとの関係もかなり頑張っただけで食い込んでいただければどうにかなるのかなという気がする。

栗田委員 大石委員 それはむずかしいのでは。

大石委員 難しいと思うがすごく大事なところだし、口にだして言っていかなければいけないと思う。諦めることなく根幹の大事なことだと思う。

栗田委員 大石委員 お気持ちはわかるが、基本的にはどういう形で移行をするかという問題である。それを超える話まで入れてしまうのは難しい。問題があるとは思いますが、そこまで話しを広げてしまうと議論が成り立たなくなってしまう。

大石委員 栗田委員 現在の問題を把握することによって新しい場所で同じようなことを起こさないことが大事だ。

栗田委員 大石委員 その点はおっしゃるとおりである。床面積はそのまま確保できるわけではないという現実を受け入れざるを得ない。そのため、現在ある機能の中で特化して何か改善を図れないかと思うのだが。

大石委員 栗田委員 それを踏まえて、私はウィーンコーナーの指摘は最もだと思う。ウィーンコーナーとかふるさと資料、市政情報などと囲った場合、ほぼ多くの市民は気持ちが引いてしまう。足が遠のいてしまう。もちろん、調べている人がいるし必要なことはわかっている。しかし、囲むことで返って一般の人にしみこんでいかないと思う。もっと点在していたほうが目に付きやすい。線引きするとむしろ入りにくくなってしまう。これから先、新しい市庁舎に入るときに大事な部分

だと感じている。カフェという話とヤングアダルトの話があった。ヤングアダルトからすると100円でも大事なのだ。だから、カフェになっているとかえってヤングアダルトの人たちを追い出すことになってしまう。その意味で武蔵野プレイスのB1階はとても意味があると思う。見張られているわけでもなく、目が届かないわけでもない、階段を上がっている人が見えるように設計されている。そういうスペースが新市庁舎にあることで、市民からしたら自分たちのための新庁舎ができたと思えるのではないかと捉えられるのではないかと。決して、市職員のための新市庁舎ではなく、市民が追い出された、スペース的にもとられたという感じが残らない新市庁舎を作って皆で喜びたいと思う。

栗田委員 図書館としての要望か、それとも全く別の観点で要望を出すのかという話になる。もちろん図書館の要望とすることもできると思うが、そうなると、図書館の方でどうやってスペースを区切るかという話になってしまう。拡大方針でいけるならば話は簡単だが、そうではない以上、どの機能を重点的に強化していくかという話になるのではないかと。先ほど話があったように、新しい実験的な取り組みができるのだから、図書はリクエストで対応し、基本的には閲覧室だということであれば、今のような話は可能性がある。しかし、逆に図書の所蔵を中心に考えるということになると、図書を置くスペースを確保する必要がある。しかし、スペースの拡大ができないとなると、どちらに重点を置いていくかという方向でしか話を進められないと思う。他のものと上手く合体して、そこをも取込みながら、図書館の一部として使うという発想で拡大を考えるしかないだろう。先ほど出た、待合室、カフェはこちらからしたらスペースが増えたということになる。可能性はあるのだが、いずれにしろ、どこに焦点をあてるかが大事だ。これは、かなりイレギュラーなやり方ではあるが、どこに重点を置いていくべきか、各自1つずつ意見を述べていただきたい。

北谷委員 新しく図書館を利用する人を増やしたいのか、今図書館を使っている人を大切にしたいのかということが大事だと思う。僕は図書館をあまり利用しておらず、読みたければ買ってしまふ。自分としては読みたい本がたまたま読めたらいいので、手に取れるとありがたい。手にとって気軽に使えるものだとありがたい。

栗田委員 開架が重要であるということか。

北谷委員 そうである。

小島委員 図書館機能のフルセットで入るのは無理だろう。多くの人が仕事や用事で来る。そこで、オープンスペースの中に市の歴史があったり、物産もあったり、本もあって気軽に読める、そこもひとつのポイントである。年齢層もかなり広いのではないかと。市役所に行くから図書館があって中央図書館や地区図書館に行ってみようと思わせる誘導ができればよいので

はと思う。

野見山委員 現在の宮町図書館の面積は242㎡、さつき会長が言ったように固有面積ということであれば4600㎡、この中で242㎡取れるか取れないかはまだ確定していない。一方で、一番初めに話があったように貸出し数が81000で中央図書館に次ぐ貸出し数で利用者が多いということを考えれば、今の宮町図書館の図書館機能を低下させるということは市民サービスを低下させることに繋がるのではないかと思う。図書館としての機能を維持しながらプラスアルファの機能をいれることを模索するべきではないかと思う。ただ、現在では情報が未確定の部分が多いのでなんとも言い難い部分もある。

茅原委員 今の宮町図書館の機能を維持しつつ、可能であればヤングアダルト機能を設けてほしい。特に若年層が本を手にとって地域の図書館に行ってみようと思わせる場所にしてほしい。

大石委員 私もできる限り機能は落ちないようにしてほしい。今府中市では中高生の居場所が不足しているので、その子達の居場所となれるような図書館作りを模索して欲しい。

高橋委員 私は図書館のボランティアをしている立場から離すと、図書館の機能はそのまま残して欲しい。もし何かを残すのであれば専門書がここならあるという場所をつくっているのが望ましい。そういった場所があることが図書館の機能としていいことだと思う。

渡辺委員 私は開架の蔵書にはこだわらない方法を模索すべきだと思う。検索機の設置と新刊本の映像資料を流すのはどうか。コミュニティスペースを少しでも広くとって多機能をもたせて、そのなかで書架を置くスペースがあれば検討してもよいが、中途半端な蔵書は必要ないのではと思う。機械に頼る時代がきたという風に考えたほうがいい。それともう一つ、集客という観点からだが、府中のケヤキ並木はとても良い場所なのであそこに良いものを作れば集客はばっちりでは。

栗田委員 一巡したので私の意見を述べる。私の考えでは蔵書は置かず、基本的に全てリクエストで対応する。図書在所蔵でスペースを占有されるともったいないという発想だ。新たな特色を出すことを考えるのであれば、所蔵にこだわらず、リクエストで対応し、あとはスペースとしての有効活用を考えて、消耗品でよい雑誌と新聞に特化して使っていただくといいのではと思う。なお、これはあくまでも個人的な私案なので、協議会全体の話ではない。そういうわけで、皆の意見がバラバラの状態だ。現時点ではこういう様々な考え方があるということで、取りあえず皆の要望をまとめておき、どこまで可能なのかということを考えて、移転計画を考えていくというしかないだろう。アンケートのことも考慮しなければならぬとも思うし、今後新しい情報が入ると思うの

で、会議の度に毎回進捗情報を報告してもらって、その都度意見を出し合えればと思う。

大石委員 先ほど A 地区でリクエストが出せると聞いたが本は渡せないのか。  
事務局 運営はもう少し詰めなければいけないが、本の受け渡しはできる。コンビニのときと同じような発想になるかと思う。

大石委員 それがもしなければ、市役所に受け渡し機能は絶対入れないといけないと思う。

栗田委員 窓口はたくさんあったほうがよい。  
事務局 市庁舎担当としても同じ機能を持たせるのであれば、それは違うのではと言われるので別のものを特化させていきたい。

高橋委員 図書の検索機はあれ以上使いやすいものはないのか。インターネットサービスの意見を聞くが、よく検索機の操作方法がわからず職員に教わっている人もいる。そういう人は、一人になるとまた操作できなくなるが、もっと使いやすい機械はないのか。

事務局 駅前の方は今後まだ検討をしていくものだが、システムをいれるとランニングコストがどうしてもかかってしまうので、紙のリクエスト用紙を使っていくつもりである。紙だと誰でも利用できるメリットもある。また、検索機の案内講座をやっているが、わからないから講座に出づらいという方もいるようだ。

大石委員 ペンで書いたものを読み取るものは導入できないのだろうか。今後そういったものがコストダウンしていくかと思うが。

事務局 システム更新の時期まで待つて欲しい。今はタッチペンとキーボード操作での対応である。

高橋委員 カフェの話が毎回出るが、賑わいのある地区で市役所内にカフェが本当に必要なのか考える必要がある。他のスペースを利用していくという考えもあっていいのではないだろうか。府中の場合、図書館は沢山あるので借りて帰るといった選択肢がたくさんある。本当にそのような施設が必要なのかと思う。むしろ、オープンにして自販機を置いたほうが現実的では。カフェありきではなく場所をどうすればよいかということを考えていく必要があるのでは。

大石委員 正直、市の施設に入っている飲食店は市民にとって使いづらいと思っている。中央図書館こそ、食事をする場所が回りに無いので検討してほしい。

茅原委員 私は美味しいのでたまに利用する。私はお金がかからずに本を利用できるスペースがあればと思うが、発信能力に関しての力がないと思うので、アンケートをやっている場所など積極的に PR できたら良いと思う。やはり市民が情報を待ち望むようになっていければと思う。

栗田委員 カフェの話が良く出るが、図書館内での飲食を許可するかどうかだ。汚して困

るものは置かず、汚しても構わないものだけ置くなどの工夫をすれば、より自由な発想が可能だろう。しかし、やはりカフェありきの発想をせずに、図書館を自由度の高い空間にする方向で進めたほうがよいのではないかと思う。飲食がひとつのネックになると個人的には思う。

渡辺委員 一步踏み出すと実情と違うこともあるのでは、プレイスのように意外と冒険して良い結果が出ているところもある。

高橋委員 私は多くの選択肢があるほうが良いと思う。空間の使い方を最初から決めてしまわないで、こういう方法があると色々な選択肢を考えるべきだ。ここでは図書館のことを考えることが大事ではないか。あまり広げすぎない方がよい。

大石委員 他にレストランがないのであれば図書館との併設にしないと困るのでは。

事務局 新市庁舎特別号の2ページに宮町図書館の記述があるが、そのすぐ上にレストランやカフェなどの設置を検討しますと書かれている。

大石委員 もし図書館と同じ枠組みで考えられているのであれば切り離すようお願いをした方が良いのでは。

事務局 あくまで交流を促進する場所という位置づけの中に図書館とカフェ、歴史館があると解釈しているが一応確認する。

渡辺委員 交流と書いてあるから図書館はレストランと同じフロアだ、レストランはもう決まりということか。

栗田委員 併設で心配なのは、運営においてかなり業者が力を持つてくるのではないかという点で、それが良いことなのかどうか疑問に思う。最初からカフェありきの話をこちらから出してしまうと、業者の導入という形で進められてしまうという可能性があるので、図書館としてはそれ以外の方法を考えた方がよいのではないか。既存のものを縮小して移転するというだけの論理では通らない。しかし、夢ばかり語っていても、そのまま通るわけではない。段々と計画が具体化して行き、他の部局と折衝するとき、一つの雛形を作る際にでも参考にしていただければと思う。

大石委員 伝えていっていただきたい。図書館の中でこういった声が強いということやアンケートに関しても、アンケートに記載された訴えは是非とも伝えていただきたい。

栗田委員 アンケートの中には予算的に厳しいだろうからと思いやってくれているものもあるが、そういった制約をどの程度意識して議論すべきか難しいところだ。

大石委員 まだ、どうなるかわからない段階で、様子を見ながら意見していかなければならない。

高橋委員 新庁舎特別号にある新庁舎建設のアンケートだが、またやるのか。私は出しそびれたが、年末に行ったようで気づいていない人は他にもいるのではないだろうか。

- 事務局 説明会を今後行うという話ではあり、新庁舎特別号の2号は3月に出る予定だと聞いている。ただ、その時にアンケートがついているかは不明である。
- 大石委員 アンケートをとる期間が短く、あまりにひどいという意見が請願書で出されているときいた。
- 栗田委員 協議会では要望としてまとめられるのでこの場はそういったかたちで利用してもらえればと思う。
- 高橋委員 それでは、またこういう場を何度かあっていただきたい。何よりも大事なのは情報の発信だと思っているので。
- 大石委員 意見を発信できる機会を頂いたときは積極的に活用した方が良いでしょう。
- 栗田委員 それでは特に意見がなければこれで閉会とする。来年度にむけて予定されている議題等はないか。あれば説明願いたい。
- 事務局 今回の議題についてもまたご報告できるかと思うし、再開地区の方についてもこの前の総務委員協議会で諮られたが、今2階にある市政情報センターが5階に移るといことで紛糾しているの、少し内容が変わるかもしれない。また何かわかったらこの場にてお知らせする。また、役所的なもので協議会の名前を変える必要がある。現在、附属機関と類似機関というものがあり、附属機関だと話し合う議題も決まっています報告書を必ず出すことになっている。本協議会は類似機関とって意見を自由に出していただいて、サービスに生かしていくという方法をとっている。附属機関で協議会という名前を使うとなると、例えば3回行っているうちの1回が報告書を作る時間になってしまう。今までと同じような会議にさせていただくために大変申し訳ないが協議会という名前が使えなくなり、サービス検討会議という名前にさせていただく。それに併せて要綱等も変更する。代わり次第、会議の場では難しいと思うが、メール等でお知らせする。来年度以降、先生の異動次第でメンバーが変わるということが考えられる。次回については決まり次第連絡をするが、一応6月あたりに行う予定だ。
- 佐藤主査 最後にお知らせだが、押立図書館が2月9日に無事リニューアルオープンした。  
児童書が円形になっているのが特長だ。押立図書館の近くに立ち寄った際はぜひご利用いただきたい。
- 栗田委員 それではこれで協議会を終わりとさせていただく。ありがとうございました。